

## 英語の助動詞

英語の助動詞について簡単にご紹介しています。

より詳しい説明が必要な方は「英語コーチング」の受講をお薦めします。☺

助動詞には話し手の気持ちがかかります。

助動詞一覧					
現在形	will	can	may	shall	must
過去形	would	could	might	should	∅
イメージ	意志	能力、可能性	許可出し感	提案、義務感	王様命令感
例文	I <u>will</u> marry you.	I can marry you.	You may marry me.	You shall marry me.	You must marry me.
雰囲気	あなたと結婚する意志があります。	あなたとの結婚は可能性としてあり得ます。 (例：親の反対がない、法律的にも金銭的にも問題ない)	あなた、私と結婚しても良いわよ。そういう許可をあげるわ。	あなたは私と結婚する義務があります。	私との結婚は命令だ。他の選択肢は一切ない！
更に...	他の人の意志はこうかな？と想像することもある（一般的に「推量」と呼ばれる）。 例) You will marry her.	能力の例) I can speak English. 英語を話す能力があるか、ということ。	許可を出す様に「こういうのも良いね」と、 <u>選択肢を広げていくイメージ</u> も（一般的に「推量」と呼ばれる）。  It may/might be A or B.	義務感がある shall/should は英文契約書でよく使われます。疑問文で Shall we~? と言うと提案している感が出ます。	must も may/might のように「推量」として使われることがありますが、その際は <u>選択肢を狭めていくイメージ</u> です。  It must be A.

100%		She is in love.
certain		She must be in love.
probable		She may be in love.
		She might be in love.
possible		She can be in love.
0%		She could be in love.
		She is not in love.

どの助動詞を使うか、そもそも助動詞を使うかどうかで、話し手の考えや感じていることが予測できます。英語に触れる時はこういうところまでをも捉えていってください。

### must=have to 神話に騙されないで！

時に、「must と have to は“～をしないとイケない”という意味だから同じだ」という説明を見かけますが、この2つのイメージは大きく異なります。

例) I must go to school.

例) I have to go to school.

must は王様が命令をして「これをしろ」「これをするな」と言っているイメージ。have to は「英語の時制」で見たように、自分のパーソナルな Have 空間に「これをする」という「やることリスト」を持っているイメージです（否定形の時は、そのリストがないイメージ）。

例) I must go to school. (強制されている感)

例) I have to go to school. (やることリストの1つが「学校に行くこと」という感じ)